１．日　　時　　平成２４年９月２０日(木)　１５：００～１６：３０
２．開催場所　　市役所本庁舎２階　第３委員会室
３．出席委員名(敬称略)

役　　職	氏　　名	出欠
委員（東北福祉大学教授）	阿部　一彦	×
委員（宮城教育大学教授）	木下　英俊	○
委員（宮城学院女子大学教授）	白木　悦子	○
委員（東北大学教授）	中島　信博	○
委員（東北大学教授）	永富　良一	×
委員（東北学院大学准教授）	松原　　悟	×
委員（仙台市スポーツ少年団本部長）	安中　俊作	○
委員（YOKO,INADA スポーツ射撃クラブ）	稲田　容子	○
委員（仙台市体育協会副会長）	金岡　昭房	○
委員（仙台市レクリエーション協会事務局長）	黒田スミ子	○
委員（仙台市障害者スポーツ協会専務理事）	中嶋嘉津子	○
委員（仙台市学区民体育振興会連合会理事）	久水　敏司	○
委員（仙台市スポーツ推進委員協議会会長）	平塚　和彦	○
委員（仙台市議会議員）	鈴木　勇治	×
委員（仙台市中学校体育連盟副会長）	朝間　康子	○
委員（仙台市小学校教育研究会体育研究部会参与）	小林　好美	○
委員（ベガルタ仙台ボランティアクラブ事務局事務次長）	加藤　茂子	○
委員（東北電力株式会社　広報･地域交流部副部長）	二階堂宏樹	○
委員（NPO 法人キューオーエル理事長）	横山　英子	×

４．説明に出席した者の職・氏名

市民局次長兼文化スポーツ部長	武田　　均
スポーツ振興課長	清水　義明
スポーツ振興課主幹兼企画係長	奥山　健一
スポーツ振興課事業係長	西本　憲次
スポーツ振興課主任	早坂　正宏
スポーツ振興課主任	佐々木　亨

５．会議の経過

（１）開　　会

（２）会長挨拶

（３）議事の内容　　議事進行役：金岡会長

会議録署名委員の指名：平塚委員

金岡会長　それでは，本日の議事である「仙台市スポーツ推進計画（答申案）」について，事務局から説明願う。

事務局　「仙台市スポーツ推進計画（答申案）」について概要説明。

中間案に対する市民や関係機関などからの意見を踏まえ，検討委員会で内容を検討したものが答申案となっている。中間案と答申案の違いについては，赤色で表現している。

金岡会長　これまでに，審議会６回，検討委員会８回を開催し，新しい仙台市のスポーツ推進計画について審議してきた。これまでの皆さんの意見や大震災のことも答申書の中に反映している。それらも含めてご意見等をいただきたい。

中島委員　計画全体の印象では，震災からの復興について元に戻すようなイメージの強い記述となっている。震災で全国・世界から注目されている地域なので，大胆なビジョンがあっても良かったと思う。

次に，これまで１０年間，国は総合型地域スポーツクラブを重点的に推進してきたが，自分は批判的に捉えてきた。今回の計画では，仙台市としても位置づけに苦労し，マイタウンという表現で学区民体育振興会などをベースに考えていこうということが伺える。既存のクラブをどうするか踏み込んだ表現があっても良かったのではないか。

また，大規模スポーツ施設を作っていた行政や企業が，近年，維持管理が難しい状態になってきているので，大学や企業と連携した新たなシステムを模索・研究するなどの広い連携を組み入れたらと考える。

さらに今後，小学校区単位の小さなコミュニティが福祉や医療では重要な役割を担うことが考えられる。スポーツにおいても身近な生活圏をベースにした再編や地域・住民主導により，自分たちの暮らしを考えることが重要になる。そして，行政がバックアップしていくことが現されても良いと思う。例として，名取のナスパの再利用に行政も民間も出てこない現状にあるので，みんなが力を合わせて新たな組織を立ち上げ，維持することができるような道筋のある計画であれば面白いと思った。

事　務　局　震災からの復興について，市民からはハード面の要望が多かったことを受け，それを表記することも考えたが，市としては「ともに前へ」と復興を進めることが大前提にあったため，計画に組み込むことが難しくなった経緯がある。しかし，５年後の計画の見直しの際にハード面を取り入れていきたいと考えている。

総合型地域スポーツクラブは，本市で立ち上げてみた結果，あまり馴染まなかったと思っている。しかし，設立し活動をしているクラブについては，今後も継続していくことと，本市独自の学区民体育振興会をコミュニティづくりへと発展していきたい。震災の際の避難所運営は，町内会はもちろんだが，さらに力を発揮されたのが学区民体育振興会の皆さんだったと思うので，スポーツに携わった方々を大切にしていきたい。

ナスパについては，本市として取得も含めて検討をした経緯があった。市の区域外に施設を求めることについて検討したが，大きな施設であり修繕・維持管理していくことが大変だろうということになった。以前も泉区のアイスリンクがなくなる際に，富谷町のスケート場を求めることが議会でも議論されたが，行政区を越える問題により困難と判断した経緯がある。今後は，地域と指定管理者が上手に関わっていかないと施設の管理は難しいのではないかと感じている。

中島委員　急に計画に取り込むのは難しいと思うので，今後，継続して議論を続けていただきたい。

金岡会長　今回の答申に加えることとはせず，今後の審議会の議論の一つとして継続していきたい。

朝間委員　学校体育との連携は，小・中・高を考えがちになるが，特別支援学校の体育授業についても組み入れる必要があると感じた。また，１１ページの競技スポーツの推進の中の「小中学生の全国大会等への派遣に対する支援の検討」の表記は，どの程度の支援を想定しているのか。

事　務　局　特別支援学校の件は，学校体育との連携の中に含んでいることが前提になっている。また，スポーツという分野の中で，学校体育やスポーツに類するもの全てをこの計画の中で実施することは困難であることから，高齢者や障害者の施策との連携の中で，特別支援学校に関することも一緒に実施していきたいと考えている。

派遣に対する支援は，大会時の育成費の一部助成など，これまでの助成制度の継続や一部改善が予定されている。部活動については助成があるが，クラブチーム等には全く制度が無いことから，それらが可能なのかということ。また，助成金ではなく，練習場などの場所の提供などの支援が可能なのかなどを，今後，検討したいと考えている。

金 岡 会 長　明確に表記するのではなく，１０ページの「高齢者，障害者のスポーツ活動の支援」の中で考えていくことでご理解願いたい。

朝 間 委 員　前回までの話しで競技スポーツの推進の中に，県や市を代表するアスリートを育成する項目を盛り込むことにしていたと思うが。

事　務　局　ジュニアアスリートについては，１６ページに本市としてのバックアップ体制などについて明記している。市が直接，アスリートを発掘するのかどうかは，今後の課題である。

金 岡 会 長　最後の検討委員会でも，市としては，子どもたちが楽しんでスポーツに参加することが主眼であって，競技力の向上は，それぞれの団体と協力していかなければならないと思っている。先ずは，スポーツを楽しむ市民を増やしていくことの観点が大きいと思う。

黒 田 委 員　基本目標で新たに「ひろがる」の表現が加わったが，「する」，「みる」，「ささえる」は，市民の側から見た表現なので，「ひろがる」ではなく「ひろげる」なのではないかと思う。

事　務　局　これまでの委員会でも意見が出たが，言葉としては，「ひろげる」が正しいと思うが，「する」，「みる」，「ささえる」という主体的なものがどんどん大きくなっていくと，最終的にスポーツが「ひろがる」ということを意味している。

金 岡 会 長　「する」，「みる」，「ささえる」は受動的で，「ひろがる」は他動的になり，自然に広がっていくことを期待しているということで，検討委員会では納得した。

稲 田 委 員　全国大会等を５回から８回に増やす計画だが，増える３回はどのような大会を考えているのか。

事　務　局　仙台市が直接，大会を誘致することは難しい状況である。地元の競技団体の意向があって実現してきた経緯がある。来年以降の具体的な予定は無いが，国際大会や日本体育協会に加盟する競技の全国大会を誘致することなどを考えており，それらが一つでも二つでも加わることで，数が増えていくものと思っている。

稲 田 委 員　実現しそうなのか。

事　務　局　鋭意努力する。震災からの復興に向けても，「元気」と「勇気」という観点から実施していきたい。委員の皆さんに大会開催などの相談があった場合は，是非ともお話しをさせていただきたい。

二階堂委員　今後，時代の大きな変化が予想されるため，２０ページの「計画の進行管理」のＰＤＣＡサイクルを回していくことが重要になると思うが，毎年，実施するのか。

また，第４章が「今後５年間に取り組む施策」としてまとめているが，５年経過した後の後半の５年間の施策の見直しについては，どのように考えているのか。

事　務　局　本計画は１０年間の計画であり，具体的な施策については５年間を目標としていて，５年経過後，正確には４年半後に進捗状況を確認し，残り５年間をどうするか考えていきたい。ＰＤＣＡサイクルの基本的な考え方は，１年度毎に実施していきたい。

中島委員　高齢者や障害者，子どもの表現はあるが，これまで女性についてはあまり議論にならなかったのか。女性が置かれている立場や企業のスポーツの在り方などの問題も考えられる。サッカーに限って言えば，女性の中学校の部活動が殆ど無いという現状を聞くと，これまではスポーツの世界の弱者として，脇に追いやられたと思わざるを得ない。「なでしこ」が投げかけている問題はそのところにあるのではないかと感じる。良い成績をあげているので，みんな応援しているが，その裏側には大変な苦労があることに目を向ける必要があると思う。

金岡会長　私自身，中学校の部活動に長く関わってきたが，学校の規模などから，生徒のニーズに答えることは難しい状況であると思う。

事　務　局　男性・女性の考え方について，具体例として１９ページ（５）に，小学校５年生の男女の児童の数値目標を設定している。数値のバックデータとして資料の最終ページに男女別の割合を示している。当初，それぞれについて目標値を設定しようと考えたが，男女の平均を４８％から６０％にする目標値にしたところである。具体的な言葉として表現するならば，例えば１０ページの「するスポーツ」１－（１）の朱書きで加えた「子どもから高齢者まで」の部分に，「性別にかかわらず」などの表現を盛り込むことを考える。

中島委員　「誰でも」，「どこでも」という表現がよくされるが，障害者や高齢者という文字が計画書の中には含まれているので，この「誰でも」の中に，女性のことについても記述する必要があると思う。

事　務　局　「なでしこ」や「ベガルタ仙台レディース」のように，女性スポーツに対する子供たちの魅力や夢がまだまだ広がっていくと思う。国やサッカー協会などが開催する講習会やイベントが仙台で行なわれることにより，多くの子どもたちが参加し，そして指導者が生まれ，さらにはそこから日本代表となるようなトップ選手が生まれるように，また，中学校の部活動として区に一つでも生まれるように働きかけていきたい。

金 岡 会 長　本日，皆さんからいただいた意見に基づき，細かな文言の変更や修正については，事務局にお任せいただくことでよろしいか。

【各委員　了承】

続いて，事務局より今後のスケジュールについて説明願う。

事　務　局　今後のスケジュールについて説明。

９月２７日　市長への答申
１０月１２日　定例教育委員会への意見聴取
１０月１９日　市議会常任委員会への報告

金 岡 会 長　このことについて，ご質問等はあるか。

【各委員　なし】

なければ，本日の審議を終了とする。

（４）その他

市民局次長より御礼の挨拶

（５）閉　会